

病院玄関で活躍する“コンシェルジュ”

2013年4月、4年に亘って行われた病院再開発事業が終了し、当院は建物、設備、医療機器のリニューアルに加え、病院の玄関に新たにコンシェルジュを配置し、これまでサポートを行っています。

コンシェルジュの業務は、早めに来院される患者さんに対応するため8時から、診察と料金計算を終えた患者さんがお帰りになるピーク時間を過ぎた15時まで、2人の女性が交替で、毎日病院玄関の内と外に立っています。



黒いパンツスーツをキリリと着こなし、冬には赤いコート、黒いハットで、笑顔で患者さん等の対応をさせていただいています。お体が不自由な患者さんが車で玄関に到着されると、すぐ車椅子にお乗りいただけるように車椅子を移動し、さりげない介助も欠かしません。患者さんやご家族の方とコミュニケーションをとりながら誘導したり、受診手続きの介助をしたり、初診の患者さんにはわかりやすく丁寧に説明さしあげたり…。決められた業務ではないさりげない気配りが、接する人をホッとさせ、患者さんのサポート業務には欠かせない存在となりました。「患者さんが気持ちよく過ごせるように、お手伝いのできればそれで良い」とひたむきにお話ししてくれたコンシェルジュ達。リニューアルした病院の顔にふさわしい、優しい笑顔でした。

当院に来られ、何かわからないことがありましたら、どうぞ遠慮なくお声をかけてください。

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

12月15日～1月14日

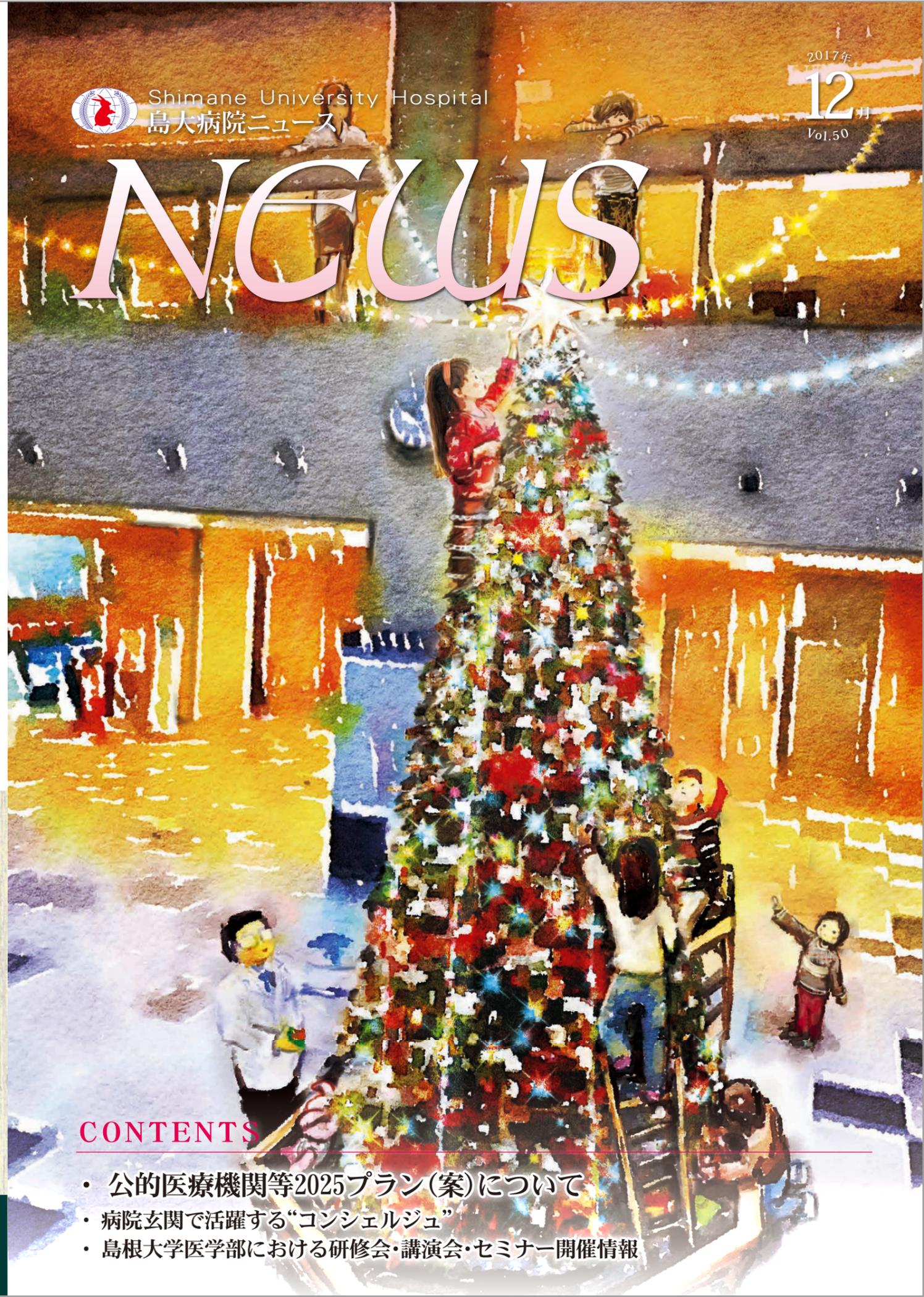
対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	時間	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
12/15(金)	9:30～11:30	平成29年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 カンファレンスルーム「だんだん」	一般	島根大学病院
12/15(金)	15:30～	平成29年度 第3回 肝臓病教室	病院2階食堂(ラバン)	一般	島根大学病院 (島根県肝疾患診療連携拠点病院)
12/15(金)	16:30～	平成29年度 第3回 家族支援講座	病院2階食堂(ラバン)	一般	島根大学病院 (島根県肝疾患診療連携拠点病院)
12/16(土)	13:00～15:30	私の心づもり「私、家族が、がんになったら」 - アドバンス・ケア・プランニングについて考えよう -	医学部看護学科棟6階 第4実習室	一般 医療 本学	看護学科と看護部との連携・協働による「がん看護実践者」育成プロジェクト
12/21(木)	18:30～19:30	平成29年度 島根大学がん医療従事者研修会 「顎顔面口腔リハビリテーション外来の実際」	附属図書館 医学図書館3階 視聴覚室	医療 本学	島根大学病院

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

- ・ 公的医療機関等2025プラン(案)について
- ・ 病院玄関で活躍する“コンシェルジュ”
- ・ 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報



公的医療機関等2025プラン(案)について

病院長 いがわ 井川 みきお 幹夫

厚生労働省から公的医療機関に対して地域医療構想の達成に向けた方向性を示すことが求められています。当院が策定した公的医療機関等2025プラン(案)のダイジェスト版をご紹介します。

■ 構想区域の現状

出雲構想区域は、特定機能病院、都道府県がん診療連携拠点病院、高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、基幹災害拠点病院など、県内の基幹病院機能が集中している区域であり、多様な疾患を有する患者さんを他区域から受入れています。急性期・回復期・慢性期病床を有する医療機関では、回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟への転換、新たに在宅医療の実施も考慮されています。

■ 構想区域の課題

病床数が多く、高度急性期から慢性期まで各病床機能を有する医療機関が存在し、医師数が多いなど医療資源が豊富である一方、高度急性期を担うとされる基幹医療機関で入院患者数の顕著な減少が問題となっています。高度急性期医療の提供は、出雲区域のみならず、全県を対象とした検討が必須ですので、他区域の基幹医療機関を交えて、重複している診療機能等について整理し、各基幹病院の役割分担について早急に協議を行う必要があります。

■ 当院の現状

当院は、1979年10月の開院以来、「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を理念として掲げ、「患者さんの視点に立った医療の提供」、「安全・安心で満足度の高い医療の実践」、「人間性豊かな思いやりのある医療人の養成」、「地域医療人とのネットワークを重視した医療の展開」、「地域社会に還元できる臨床研究の推進」を目標として地域の医療水準の向上に寄与してきました。病院再開発の完了により、救急医療および急性期医療の充実、がん医療の推進、教育・研修環境の向上、快適な療養環境の提供が可能となっています。

救急医療については、13名と県内で最多の救急専従医師を擁する当院は、島根県全域を対象とした高水準の救急医療を実践するとともに災害医療にも対応し、また原子力災害拠点病院として県民の安全・安心の生活の確保に中心的な役割を担っています。

がん医療では、都道府県がん診療連携拠点病院として、手術、化学療法および放射線治療の精度を上げ、緩和ケアに丁寧に取り組み、更に希少がん、小児がん対策、がん患者の就労支援を含む包括的ながん医療を実施しています。2017年8月、先端がん治療センターを設置し、診療科横断的ながんに対するPrecision Medicineを開始して県内のがん医療水準の向上に貢献しています。

周産期医療では、分娩室の増室、NICUの増床、GCUの設置など周産期部門を拡充し、他基幹病院のNICUで対応できない患者さんを引き受けるなど周産期母子医療センターとしての役割を十二分に果たしています。

県内唯一の医育機関としてこれまで多くの医師を輩出するとともに、昨年度から運用を開始した附属病院医師派遣検討委員会を通じて、県内医療機関に積極的に医師派遣を行っています。

■ 当院の課題

医師数の診療科偏在が存在し、関連病院に医師を十分派遣できないケースも多く、医師数が不足している診療科では診療のみならず、臨床研究水準の低下にもつながり、当院にとっても大きな問題となっています。後方病院の確保も課題で、特に重症外傷患者等、当院に集約されている患者の出口問題を解決する必要があります。高額医療機器、特に画像診断装置、放射線治療装置の維持、更新経費の増大が経営に影響を及ぼしています。

■ 今後持つべき病床機能

特定機能病院として高度急性期及び急性期機能に特化し、病床規模は、医師養成と臨床研究機能を維持するため、600床(精神病床30床を含む)を継続し、病床機能は高度急性期200床(約35%)、急性期370床を想定しています。周産期医療の機能強化として、NICU、GCUの増床、救急医療の機能強化策として、SCU、CCUの設置等を考慮します。

■ 地域において今後担うべき役割

超少子・高齢社会の進展に伴い、医療・介護サービスに対するニーズが質・量の両面で大きく変化する可能性がある中で、各医療機関は機能分化しながら切れ目のない医療を提供する使命があり、当院は高度医療の提供、人材育成、臨床研究の推進を図ります。

人材育成では、今年度新設したりハビリテーション医学講座が養成する専門医が回復期機能を中心とする県内の医療機関で活躍することを期待しています。医師派遣検討委員会を通じて透明性の高い医師派遣を行い、当院の卒後臨床研修センター専門研修等部門、しまね地域医療支援センターが連携して専門研修と地域枠等出身医師の義務履行との整合性を図ります。さらに関連病院と当院が医師派遣に関するクロスアポイントメント制度を運用して、医師派遣の円滑化、医師の研究及びキャリア形成支援を行います。

当院は大学病院、特定機能病院としての役割を一層明確化するとともに、各診療科が協力して高次医療を担うセンターとしても機能し、構想区域を超え、島根県全域を対象とした高度急性期・急性期医療を担い、診療における司令塔としての役割を果たします。





ご報告

(臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項)

ISO15189 認定を取得しました

検査部 臨床検査技師長 みしま せいじ
三島 清司

当院検査部・輸血部・病理部では島根県内初となるISO15189認定を取得しました。

ISO (International Organization for Standardization: 国際標準化機構) では、国際的な取引をスムーズにするために製品やサービスに関する様々な標準や規格を制定、発行し国際的に普及させています。現在20,000種類以上の規格があります。

ISO15189は臨床検査室に特化した規格で、管理上の要求事項と技術的要求事項があります(図1)。当院では、約1年の準備期間を経て2017年10月12日付で認定を取得しました。これにより「国際的に認められたマネジメントシステムに基づき運営され、技術的に適格であり、妥当な結果を出す能力があることが認められた」検査室となりました。当院検査部・輸血部・病理部の検査結果は信頼性の高い国際的にも通用するものであることの証となります。

ISO15189認定検査室としてこれからも信頼される良質な検査情報を提供し、日常診療はもとより、国際治験や医療ツーリズムなど医療のグローバル化にも貢献して参ります。

図1: ISO15189の構成



検査室や検査結果の質を管理するために必要な仕組みや管理方法

- 4.1 組織及び管理主体責務
- 4.2 品質マネジメントシステム
- 4.3 文書管理
- 4.4 サービスの合意事項
- 4.5 委託検査室による検査
- 4.6 外部からのサービス及び供給品
- 4.7 アドバイスサービス
- 4.8 苦情処理
- 4.9 不適合の識別及び管理
- 4.10 是正処置
- 4.11 予防処置
- 4.12 継続的改善
- 4.13 記録の管理
- 4.14 評価及び監査
- 4.15 マネジメントレビュー

正しい検査結果を出すために必要な能力や方法

- 5.1 要員
- 5.2 施設及び環境条件
- 5.3 検査室の機材、試薬、及び消耗品
- 5.4 検査前プロセス
- 5.5 検査プロセス
- 5.6 検査結果の品質の確保
- 5.7 検査後プロセス
- 5.8 結果の報告
- 5.9 結果の報告 (リリース)
- 5.10 検査室情報マネジメント

Systemex HP (<https://systemex-isosupport.com/iso/iso15189.html>) より引用



キックオフミーティング (2016年11月28日)



ISO15189認定証





ご報告



ご報告

～山陰初～ヘミダブルスイッチ手術を行った右胸心、内臓逆位、肺動脈閉鎖を含む計11もの先天性心疾患を合併した修正大血管転移症の1歳の幼児が元気に退院!!

～山陰初～ ヘミダブルスイッチ手術を行った右胸心、内臓逆位、 肺動脈閉鎖を含む計11もの先天性心疾患を合併した 修正大血管転移症の1歳の幼児が元気に退院!!

心臓血管外科 講師 藤本 欣史
ふじもと よしふみ

当院小児心臓チーム(小児心臓外科、小児循環器)では、このたび山陰では初めて「ヘミダブルスイッチ手術(Hemi-Double Switch Operation; Hemi-DSO)」を施行し患者さんが元気に退院いたしました。小児心臓チームでは、複雑先天性心疾患に対して高度な外科治療を行い、県内の患者さんが県内で元気になっていくよう日々努力しております。

患者さんは2016年に当院で生まれた男児で、主疾患名は修正大血管転移(congenitally corrected TGA; cc-TGA)で、他に内臓逆位(上下大静脈は左)、右胸心(心尖部は右)、肺動脈閉鎖、肺動脈縮窄、動脈管開存、心室中隔欠損、心房中隔欠損、両側上大静脈、冠動脈起始異常、右大動脈弓と計11の先天性心疾患

を有しておりました(図1)。生直後に当院NICUに入院し、生後1か月で初回姑息術である体肺動脈短絡術(BTシャント)と中心肺動脈形成を行った後に、1歳6か月で今回のヘミダブルスイッチ手術を行うことで生まれつきの心疾患がすべて修復されました。

修正大血管転移症は、先天的に「右心房—左心室—肺動脈」、「左心房—右室—大動脈」と接続しており、体静脈血が左室経由で肺動脈に送られ、体血流は右心室経由で供給されるという血行動態となっているため、解剖学的にその異常を修復するためには通常、「体静脈血を右心室へ」、「肺静脈血を左心室へ」と導くように心房内での血流転換が必要で、さらには、「右心室から肺動脈へ」、「左心室から大動脈へ」と血流を導くよう心室大血管での血流転換も必要で、計2か所で血流転換を行う「ダブルスイッチ手術」が解剖学的な修復術とされています。しかし、当患者さんの場合は、1. 右心室がやや小さめで上下半身の体静脈血を通過させるには懸念があったのと、2. 内臓逆位、右胸心と非常に複雑な心臓大血管の位置関係であったため通常のダブルスイッチ手術よりかなり時間を要する(通常左向きである心臓が右向きであるということは、こと手術となれば単に「左右逆」と

図1. 本患者の心臓

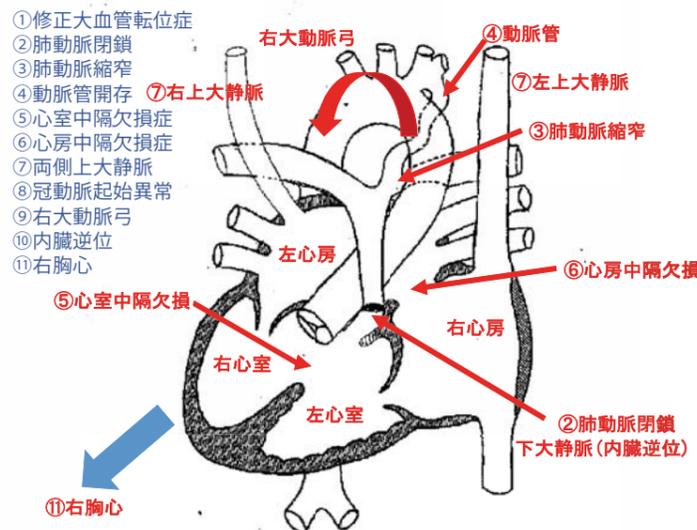
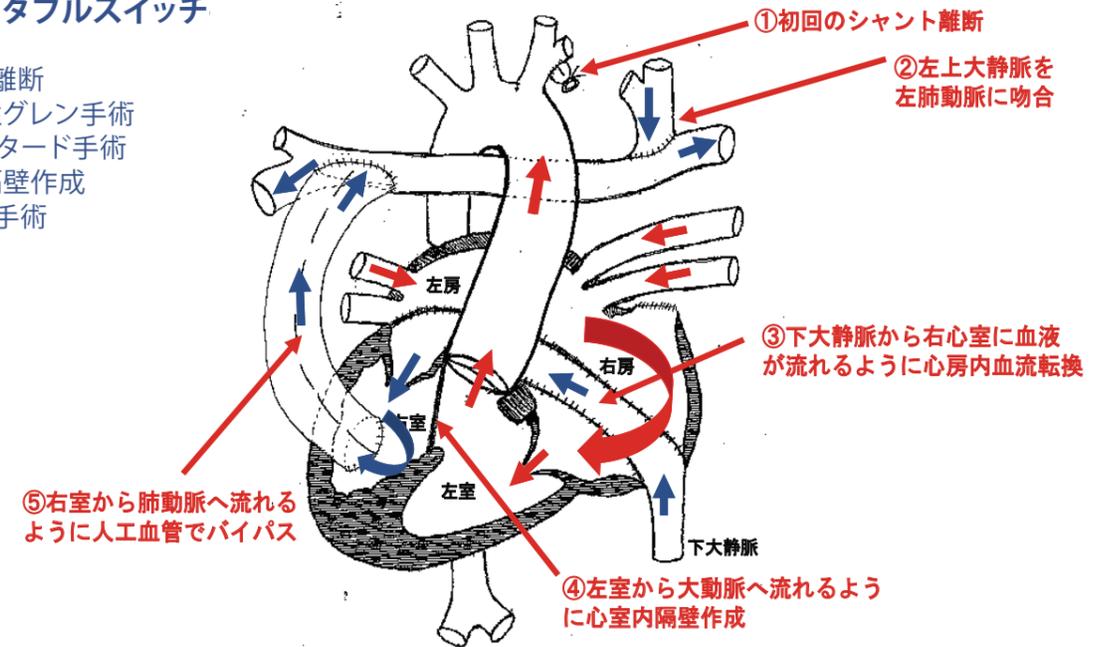


図2. ヘミダブルスイッチ

- ①シャント離断
- ②両方向性グレン手術
- ③ヘミマスタート手術
- ④心室内隔壁作成
- ⑤ラステリ手術



という言葉で言い表せないくらい難しいのです。例えば、右利きの人にいきなり「今日はずっと左手で字を書いてください」というようなものだと思います。当患者さんでは通常のダブルスイッチ手術を行いませんでした。代わりに上大静脈を心房から切り離し、肺動脈に直接吻合する両方向性グレン手術を行い、上半身の静脈血は右心室を経由せずに直接肺動脈へと流し右心室の負担を軽減し、「半分」という意味合いの「ヘミ」ダブルスイッチ手術を行いました。左側の下大静脈血を心房内で血流転換(ヘミマスタート手術)することで右側の右心室へと流し、人工血管による心外導管で肺動脈へと導いています(ラステリ手術)。すなわち、「ヘミダブルスイッチ手術」とは、1. 両方向性グレン手術、2. ヘミマスタート手術、3. ラステリ手術、4. 心室内隔壁作成からなる修復術式です(図2)。これにより、チアノーゼは消失し先天性心疾患は修復されたこととなります。このような複雑な手術は、小児心臓手術の専門の施設以外では不可能な治療であり、当院小児心臓チームは山陰唯一の施設として初めてこの手術を行いました。「島根県のこどもの心臓の病気は我々が治す」ことをこれからも続けていきたいと思ひます。未来を背負うこども達の命を救っていききたい……。

裏面へ





島大病院ニュース 2017年12月

ご報告



島大病院ニュース 2017年12月

ご報告



2017夢フェスタinいずも おろち踊りパレードに参加しました

秋晴れの10月7日(土)、出雲市今市地区で2017夢フェスタinいずものおろち踊りパレードが行われ、14チームが伝統のおろち踊りを踊り、沿道の観客を魅了しました。

我が島根大学医学部附属病院チームは、井川病院長を先頭に医療職員、看護職員、事務職員ら総勢68名が参加しました。

職員有志は一週間前から業務終了後、体育館に集まり練習。全員が踊れるようになるまで猛特訓を重ねました。

当日は、朝から雨が降り続き、祭の開催が危ぶまれましたが、午後には夏に戻ったような陽気となり、絶好の祭り日和となりました。

今市コミュニティセンターに集合した職員は、揃いの浴衣に着替え、駐車場でも練習。今市郵便局での出陣式で気合を入れ、高瀬川付近まで移動し、振り付けの最終確認後、満を持して念仏寺から緊張の面持ちでスタートしました。

島大病院の連は、都はるみの「おろち太鼓」の唄に合わせ、鮮やかなバチ捌きで出雲市駅までの中央通りを約30分間練り歩きました。全員が笑顔で練習の成果を発揮し、踊りきった後は爽やかな汗と充実感に包まれました。

当院は開院以来、出雲地域の皆様とともに歩んでまいりました。今後も地域との繋がりを大切に安全・安心の医療に取り組んで参ります。



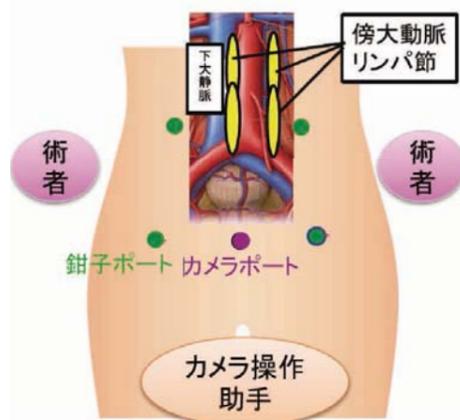
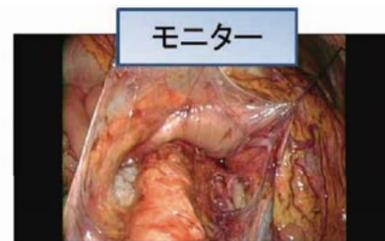
軽快に踊る神田真理子看護部長(左)と井川幹夫病院長(右)



唄に合わせて、熱心に踊る職員の様子

子宮体癌に対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術の 先進医療認定施設となりました

産科婦人科 診療科長 きょう さとる
京 哲



子宮体癌の腹腔鏡下根治術は平成26年より保険診療となっており、県内では唯一当院が実施しておりますが、リンパ節の摘出は骨盤リンパ節だけに制限されています。しかし、子宮体癌の高リスク群(癌の浸潤が子宮の筋肉の深いところまで進んでいる場合など:進行期はIB期以上)ではより高い位置にある傍大動脈リンパ節への転移が想定されます。このリンパ節の摘出は保険診療では開腹手術しか認められておりません。

当科では傍大動脈リンパ節摘出までを含めた手技の全てを全て腹腔鏡で行う手術を臨床試験として平成29年2月より開始し、その実績を元に平成29年10月より先進医療認定施設となりました(全国で9施設)。これまでの執刀例では大幅な出血量の減少と術後回復期間の短縮を認めております。開腹による傍大動脈リンパ節郭清術は下腹部から胸部の下までにおよぶ大きな傷痕を残し、術後の回復も婦人科の手術の中では最も時間を要します。これに対して腹腔鏡下手術では腹部に5-6カ所の1-2cm程度の傷が残るだけで手術を完遂でき、術後も1週間程度で退院可能です。開腹手術との比較で、腹腔鏡下手術の低侵襲性が最も顕著に発揮されるのが本手術です。

先進医療の手術自体は自己負担となりますが、それ以外の診療にかかる費用(入院費や検査、投薬など)は健康保険の対象となる混合診療が適用されます。従来は全て自費診療で行われていたものですので、先進医療適応となることで自己負担が大幅に減り、患者さんには朗報です。生命保険の先進医療特約を契約されている患者さんは手術費用が全額支給されます。

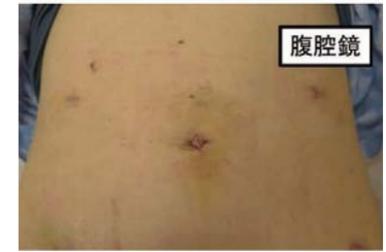
この手術を含めた腹腔鏡下の子宮頸がん、体癌手術を希望される患者さんをご紹介いただければ幸いです。

問合せ先 婦人科外来 **TEL:0853-20-2389**

腹部術創の比較



開腹術



腹腔鏡



平成29年12発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成29年12発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2017年12月

お知らせ

県内初 もうすぐTAVIを開始します

(タビ:経カテーテル的大動脈弁留置術)

総合ハートセンター センター長 たなべ かずあき
田邊 一明

超高齢化社会の到来に伴い、加齢変性に伴う大動脈弁狭窄症が増加しています。内科的治療は対症療法に過ぎず、根本治療は人工弁置換を行うしかありませんが、侵襲が大きいため治療が必要な症例の約半数は未治療のまま経過観察されていると言われています。

TAVI(経カテーテル的大動脈弁留置術)は2002年にフランスで初めて臨床応用され、日本でも2013年に保険適用されて以来、6,000例以上がこの治療を受けています。TAVIの最大の利点はその低侵襲性で、大腿動脈や心尖部からアプローチして経カテーテル的に人工弁を大動脈弁位に植え込むため人工心肺を必要とせず、皮膚切開も小さくて済みます。そのため術後の回復が非常に早く、経過が良ければ手術翌日には歩行開始し、1週間程度で退院可能です。現在、日本では開胸手術困難と判定された症例がTAVIの対象とされていますが、良好な治療成績により欧米では治療対象が拡大されています。

当院でも新設された総合ハートセンターで県内初のTAVIを開始すべく準備を進めております。

もしも高齢者が「動くのがつらい」と訴えられたらまず聴診してみてください。そして収縮期雑音が聞こえたら胸苦の原因は大動脈弁狭窄症かもしれません。スクリーニングはこれで十分ですので、ぜひ当院へご紹介いただきますようお願い申し上げます。

ホットライン **TEL:070-5672-8109**

問合せ先 循環器内科(医局) **TEL:0853-20-2206**

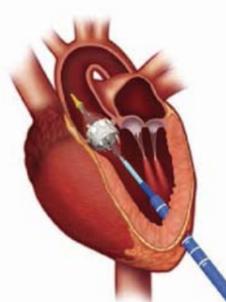
使用する生体弁



経大腿アプローチ
Trans-femoral (TF)



経心尖アプローチ
Trans-apical (TA)



島大病院ニュース 2017年12月

ご報告

西日本初の新型MRI装置導入
時間短縮と高画質化で、さらに高度な検査を
当施設では、西日本で初となる高画質と多様な臨床応用に対応した
フィリップス社製の新型MRI装置「Ingenia 3.0T CX Dual」を導入しました。



- ① 世界初のフルデジタルMRI
- ② 西日本初の最新鋭3.0T
- ③ 業界最高クラスの傾斜磁場を用いた超高画質を実現
- ④ 3.0Tとデジタル技術により時間短縮、あるいは更なる高画質が可能

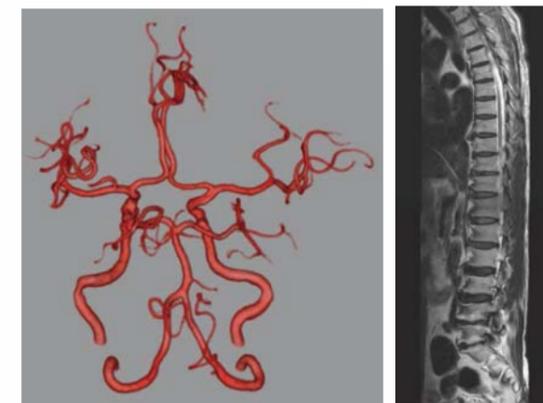
このMRI検査は、「脳ドック」「アンチエイジング脳ドック」「全身ドック」および「オプション検査」で受診いただけます。詳しくは受付へおたずねください。

ヘルスサイエンスセンター島根への 診療放射線技師派遣について — MRI検査 —

放射線部 部長 きたがき はじめ
北垣 一

当院では、1.5T MRI装置の更新と3.0T装置の増設を予定しており、準備を始めています。更新・増設工事期間中は、2台(現有3台)の装置で検査を施行しなければならず、患者さんにご不便をお掛けすることになります。そこで、工事期間中のMRI検査は、ヘルスサイエンスセンター島根の協力を得て施行したいと考え、お願いしているところです。ヘルスサイエンスセンター島根ではPhilips社製の3.0T装置が稼働し、高画質の情報を得ることが可能です。しかし、診療放射線技師が2名しかおらず、MRI検査の増加に対応できません。そこで、当院の診療放射線技師を派遣し、サポートすることを提案しました(業務時間外)。

病院長からは病院運営委員会において、患者サービスの観点から「MRI検査は当院で施行するのが原則であり、止むを得ない場合にはヘルスサイエンスセンター島根へ依頼する」旨の発言がありました。今後は、MRI検査オーダーされる各診療科の意見も聞きながらヘルスサイエンスセンター島根との相互協力体制を構築したいと考えています。今回は、その初期段階として診療放射線技師の派遣を開始しましたのでご報告致します。



ヘルスサイエンスセンター島根では、従来作成できなかった3D画像の作成が当院MRIスタッフとの連携で作成可能となりました。
広範囲の脊椎撮影も鮮明に撮影できました。



平成29年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成29年12月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





お知らせ



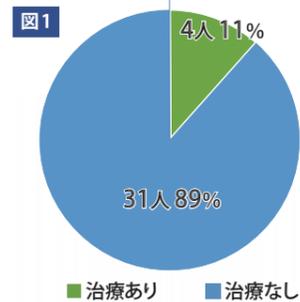
骨粗鬆症による脆弱性骨折に対する再骨折予防の取り組み

リハビリテーション部 副部長 さかい やすお
酒井 康生

日本の骨粗鬆症患者数は1,280万人とも言われています。骨粗鬆症で問題になるのは、骨強度が低下するため通常の立位からの転倒でも容易に骨折(脆弱性骨折)を来すことです。また骨折は一度起こすと再骨折のリスクが2-4倍になるとも言われています(表1)。近年、骨密度上昇効果や骨折発生抑制効果の高いお薬が多数出ていますが、服薬遵守率は1年で半減し、脆弱性骨折既往者であっても、骨粗鬆症薬処方率は20%以下との報告があります。当院の調査でも、脆弱性骨折で当院救急外来を受診した患者さんの85%が未治療であり、骨折既往者でさえ89%が未治療という現状(図1)が明らかとなりました。当院では再骨折予防をミッションとした骨粗鬆症リエゾン(連携)チームが立ち上がりました(図2)。地域で活用できる再骨折予防手帳を作成し(図3)、骨粗鬆症のリスク評価、治療の開始と継続、栄養指導、転倒予防のための運動指導、骨密度検査受診率の向上などに取り組んでいます。骨折で要介護となりQOLが低下するような状況を患者さんに作らないためにも、骨粗鬆症リエゾン活動の発展に努めてまいりたいと思います。

表1		その後の骨折部位		
		手関節	椎体	大腿骨近位
既存骨折部位	手関節	3.3	1.7	1.9
	椎体	1.4	4.4	2.3
	大腿骨近位		2.5	2.3

既往とその後の骨折リスク(次の骨折が何倍起こりやすいか)



脆弱性骨折既往患者の骨粗鬆症治療状況



島根大学医学部附属病院骨粗鬆症リエゾンチーム



再骨折予防手帳



ご報告



出雲土建(株)の皆さんによる除草作業

環境整備ボランティアさんにお世話になっています

当院では、環境整備ボランティアさんにお世話になり、定期的に環境整備を行っていただいています。今回は、10月に実施された2組のボランティア活動のご報告です。

平成29年10月21日(土)8時~9時30分の間、出雲市シルバー人材センター(世話人:吾郷勲様)の皆さん総勢17名により、大学正門前の市道沿いの生垣の剪定・除草・清掃活動を行っていただきました。

また、同日8時30分~11時30分の間、出雲土建(株)(世話人:石飛裕司様)の皆さん総勢39名により、C病棟南側・日本庭園周辺の除草作業等を行っていただきました。

出雲市シルバー人材センターの皆さんと出雲土建(株)の皆さんには秋の奉仕活動の一環として毎年作業を行っていただいております。長く伸びた草や藁を丁寧な作業により撤去していただきとてもきれいになりました。

地域のボランティア活動に支えられ、患者さんも快適な環境の中で気持ちよく診療をうけていただけることと思います。

出雲市シルバー人材センターの皆さんと出雲土建(株)の皆さん、いつもありがとうございます。



シルバー人材センターの皆さんによる除草作業



出雲土建(株)の皆さんによる除草作業





お知らせ



毎月開催しています♪ ボランティアコンサート♪

当院では、患者さんやご家族の皆さんに心とむひとときを過ごしていただけるよう、定期的に「病院ボランティアコンサート」を開催しています。

今年度開催された一部をご紹介します。

10月13日(金)は、出雲ハーモニカ同好会による「懐かしのメロディーコンサート」。童謡や歌謡曲、懐かしい昭和の名曲の数々が、ハーモニカの合奏に乗せて患者さんの心に届けられました。同月27日(金)には、二胡ルビーズによる「秋のロビーコンサート IN 島根大学病院」が開催され、中国伝統音楽の二胡の柔らかな美しい音色が聴衆の心をひきつけて止まぬひと時となりました。

11月17日(金)は、創作朗読楽団「Repos」による「創作朗読劇 我が名はオオクニヌシ」が披露され、魅力あふれる朗読と音楽の融合で日本神話の世界を見事に表現されました。

どの団体も、プログラムや内容を毎回創意工夫され、会場を盛り上げてくださいます。応募者も年々増えており、以前は月1回であった開催が、2回になる月もあります。

今後も、患者さんやご家族の皆さんに病院で過ごす時間を少しでも楽しんでいただけるよう、スタッフ一同、心を込めてボランティアの皆さんとともに取り組んでいきたいと思っております。



ご報告



庭園等を彩るクリスマスイルミネーション

当院では毎年、入院中の患者さんに寒い冬の夜を少しでも温かい気持ちで過ごしていただけるよう、12月になると医学部学生有志によるクリスマスイルミネーションの飾り付けが行われてきましたが、小規模なものでした。

今年のイルミネーションは、病院南側の庭園中央にあります。藤棚を利用し、デザインも一新、出雲市のシンボルである“出雲ドーム”をイメージした幻想的で暖かみのあるイルミネーションにしてみました。併せて、病院玄関前のしだれ桜も、夜は光の桜を咲かせることにしました。12月5日にはライティングセレモニー(点灯式)を行いました。

点灯後のイベントとして、「うさぎ保育所のこどもたちによる合唱」、「看護職員によるクリスマスソングのハンドベル演奏」が行われました。

冷たく澄み切った空気の冬の庭園が、明るく華やぎ、寒さも忘れさせてくれます。各病棟からの眺めも最高ですし、近くを歩く人もふと立ち止まり、目を楽しませ、気持ちが和むひとときです。

今年の冬は、寒くなりそうです。雪がちらつき始め庭園が銀世界になると、ひときわイルミネーションが映え、別世界が広がることでしょう。

庭園等のイルミネーションは、冬期間毎日17時から22時まで点灯しています。病院1階の待合室も、大きなクリスマスツリーが、来院患者さんの目を楽しませています。外に出ることができない入院患者さん、外来患者さんも、当院の“冬の風物詩”を存分に楽しんでいただければ、と願っています。





ご報告



院内感染対策チーム Infection control team (ICT)は、 パワーアップし活動中です！

感染制御部 副部長 さの ちあき
佐野 千晶

ICTは、世間一般ではInformation and communication technology 情報通信技術を意味しますが、ここではInfection control team 院内感染対策チームのことをいいます。ICTは、院内で起こるさまざまな感染症から患者さん・ご家族・職員の安全を守る活動を行っています。ICTは、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師に加え、事務、栄養治療室、基礎講座、研修医等 含め70名以上の職員の専門性や経験を活かす体制をとっています。主な業務として、感染予防策の遵守、院内感染対策マニュアルの整備、耐性菌・無菌材料からの検出菌サーベイランス、抗菌薬の適正使用、針刺しなどの職業感染対策、感染症患者のコンサルテーション対応、環境浄化等に関わっています。今年度より専従者を増やしてパワーアップしたICTでは、患者さんや職員の皆様から愛されるチームを目指して鋭意活動中です。写真のターコイズブルーのスクラブを見かけたら、是非とも手指衛生を思い浮かべて下さい。今後とも院内感染対策にご協力頂けますようお願い致します。



職員教育のため、手の表面についている細菌を調べています



ご報告

「塩冶地区文化祭」に参加しました。

看護部長 かんた まりこ
神田 真理子

11月5日(日) 塩冶地区の文化祭に、当院から私をはじめ看護師長、男性看護師会のメンバーが参加しました。当院は、塩冶地区内にあり4年前より参加させて頂いています。文化祭にあわせて地区の保健師さんのご協力を得て「まちの保健室」を開設し、血管年齢測定や血圧測定、住民の方と一緒に「いきいき健康体操」を行いました。住民の方から健康に関する身近な質問があり健康の意識が高いことがわかりました。この活動を通して私達看護職員も、住民の方と楽しい交流が図られ有意義な1日となりました。当日は、晴天に恵まれ約100名の住民の参加があり大変好評に終えることができました。

当院は、「地域医療と先進医療が調和する大学病院」の理念のもと地域社会から求められる大学病院として、看護職員も地域貢献を行っていきたくと考えています。今後も、その活動を広げて地域の皆様に信頼される病院をめざしたいと思っています。

